

Moving C M

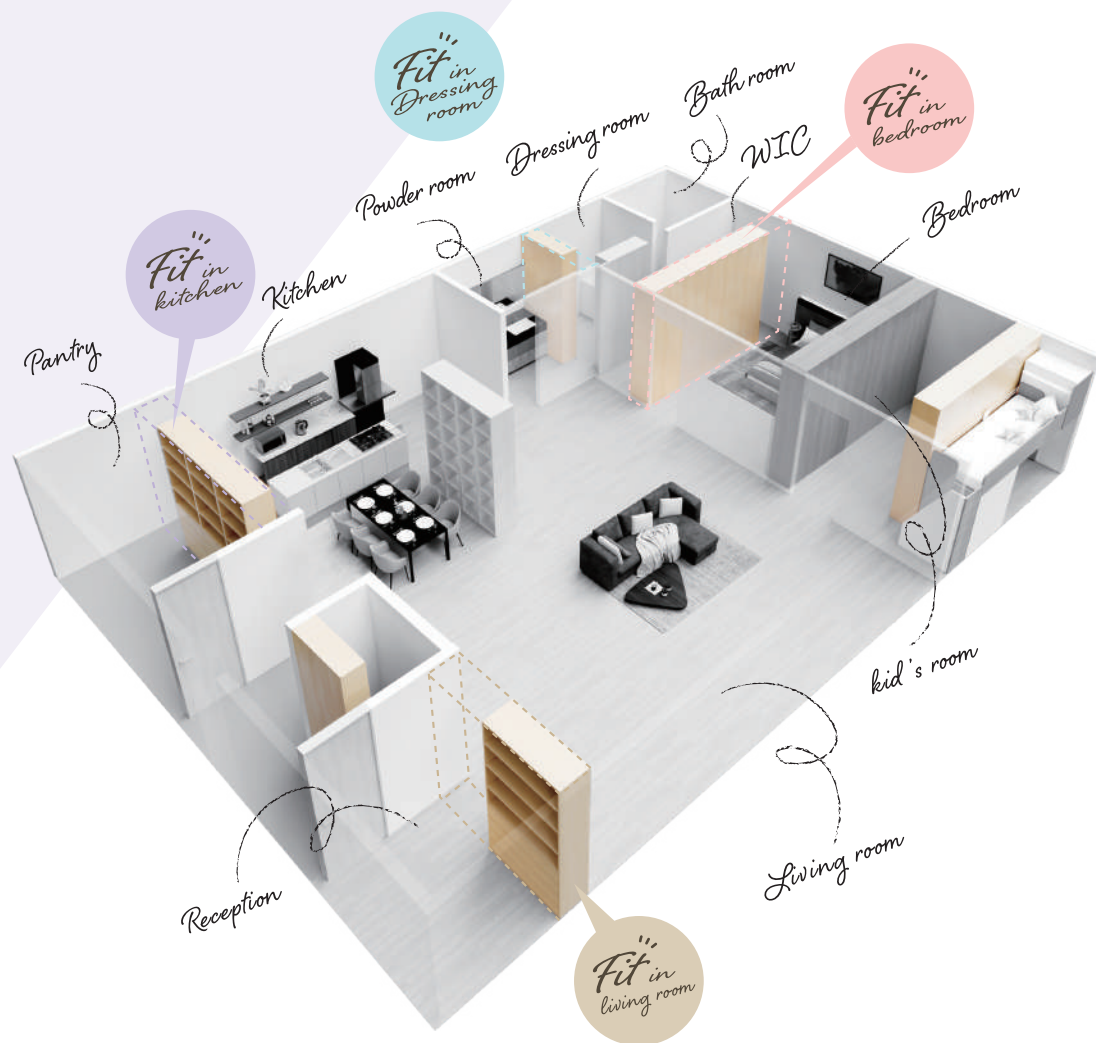
可	動	間	仕	切	収	納
---	---	---	---	---	---	---

暮らしに合わせて、空間をかえていく。
部屋をわけたり、オープンにしたり。
うごく間仕切で暮らしが変わる。

趣味が増えたり、こどもが生まれたり、働き方がかわったり
ライフスタイルの変化に合わせて、必要な場所をさっと間仕切る。
子どもが巣立ったあとの部屋も、暮らしに再びフィットさせられたら
きっと、これからの時間がもっと心地よくなるはず。

収納と間仕切を一体化した設計だから、
空間だけでなく“ものの居場所”も整えられるのが特長。
すっきりとつかえて、うごかせる。毎日をもっと柔軟に、もっと快適に。

部屋に暮らしを合わせるのではなく、部屋を暮らしに合わせる。
間取りにしばられず、空間も暮らしも自分で整える。
そんな新しい発想の暮らしが、セフィットではじまります。



暮らしに合わせて部屋をわけたり、オープンにしたり。
収納を兼ねた間仕切を自由自在に動かせる。

Point 1
簡単に
うごかせる

ハンドル1つで「うごく」
「うごかない」を切り替えて、
指一本でもなめらかに可動します。



Point 2
1mm単位の
オーダーメイド

お部屋の間取りは、お家によってそれぞれ。
どんな間取りにも、暮らしにも、
ピッタリのオーダーメイドです。



Point 3
うごかない
安心と安全

震度7の耐震テストをクリア。
高い耐震設計で、安心安全に
大切な家族を守ります。



部屋をわけたり、オープンにしたり。
うごく間仕切で暮らしをかえる。





可動間仕切収納のはじめかた

家族の暮らしは、少しずつかわっていくもの。

成長や変化に合わせて、空間も“うごかせたら”、もっと心地よくなるはず。

間仕切る？ひらく？どんなものを収納する？

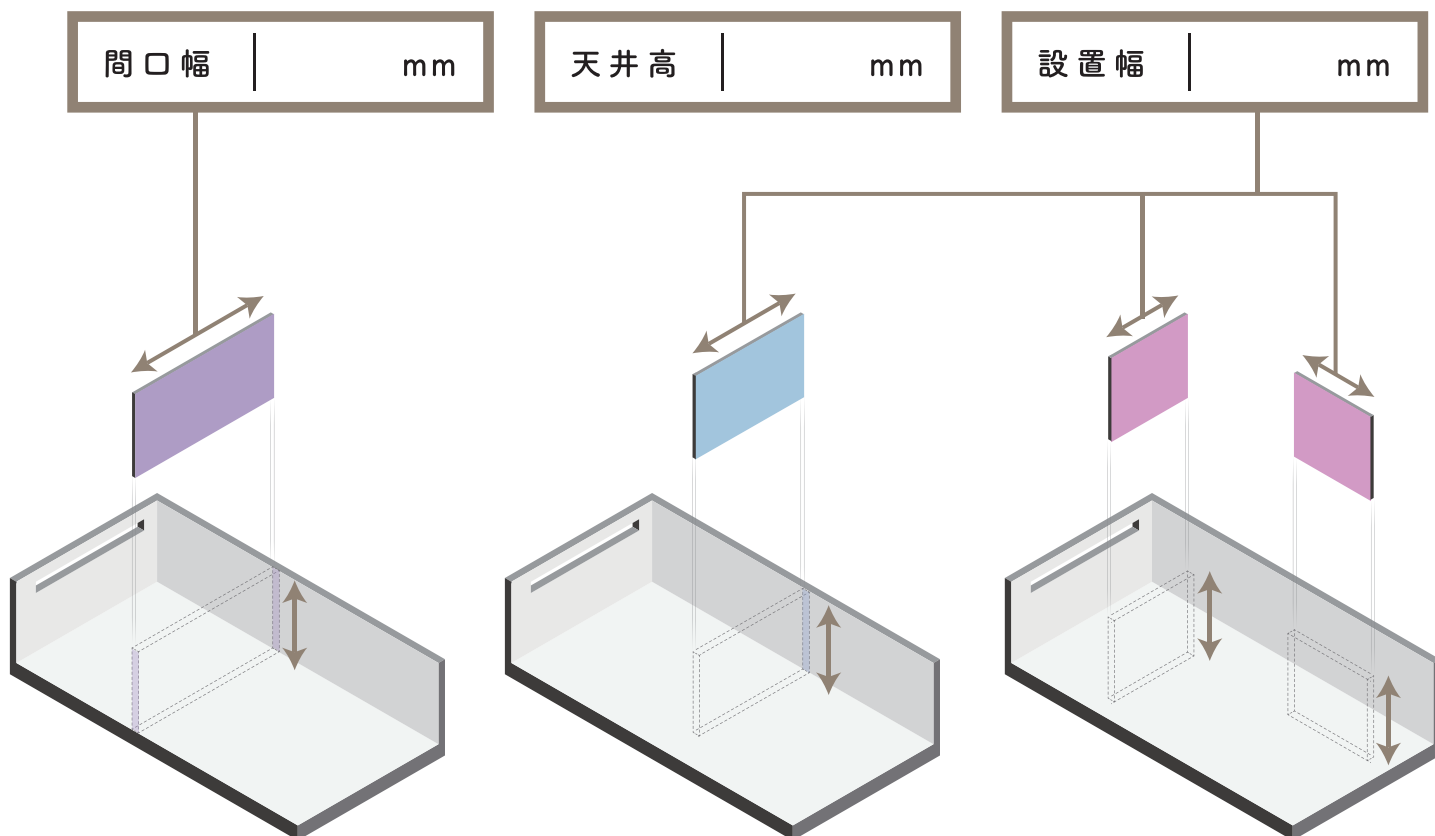
家族の今と未来にぴったりフィットする可動間仕切収納

ここから、見つけてみませんか。



寸法を測ろう！

まずは、可動間仕切収納を設置したい空間の「間口幅」と「天井高」を測ってみましょう。
それからどんな風に間仕切りたいのか考え、「設置幅」を決めましょう。



＼壁から壁まで間仕切りたい／

Wall to Wall

間口に対しピッタリのサイズで、
両壁に接地して空間を分けるスタイル

＼部屋の一部だけ間仕切りたい／

Peninsula

完全に間仕切りせず、
片側のみ壁に接地して使用するスタイル

＼フレキシブルなレイアウトにしたい／

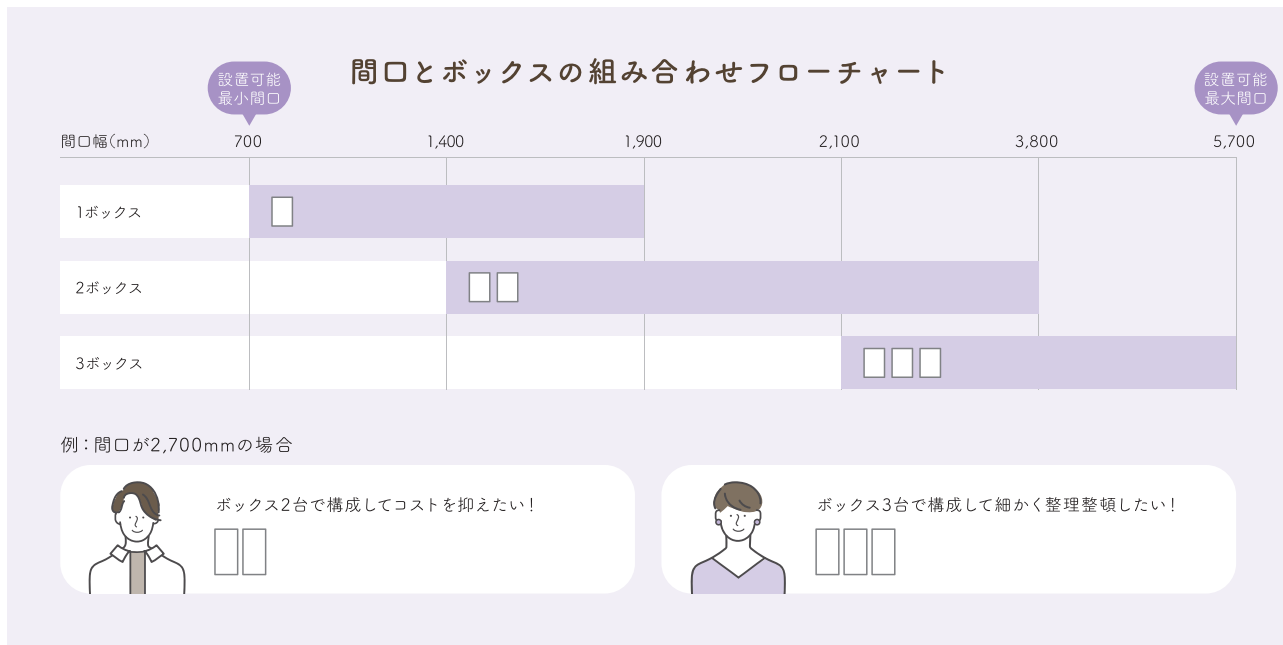
Island Grid

壁と接地させず、
可動家具として使用するスタイル

Step 2

組み合わせを考えよう！

可動間仕切収納は、間仕切りたい設置幅を、目的や使いやすさを考え、ボックスを組み合わせておつくりします。
ボックスタイプによりユニット数や奥行など仕様が異なります。
間仕切り方法に応じて組み合わせを考えましょう。



スタンダードボックス

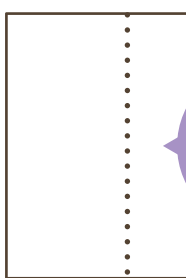
06

700～960mm



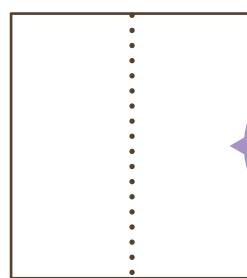
10
1ユニット
で構成

961～1,400mm



15
1.5ユニット
で構成

1,401～1,900mm



20
2ユニット
で構成

ダブルボックス

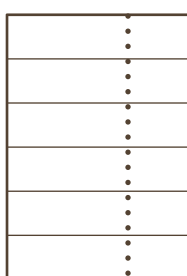
05

700～960mm



(10：正面)

961～1,400mm



(15：正面)



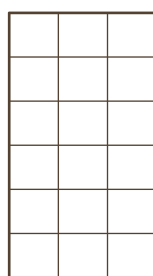
(側面)

両面
使用可能

グリッドボックス

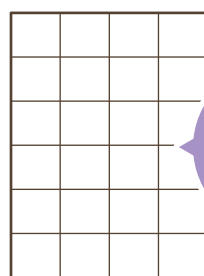
04

1,170mm



(12)

1,550mm



(16)

背板のない
オープン
シェルフ

	スタンダードボックス			ダブルボックス		グリッドボックス	
タイプ	10 (2枚扉)	15 (3枚扉)	20 (4枚扉)	10	15	12 (3×6)	16 (4×6)
奥行	560mm			508mm		410mm	
高さ	1,900～2,600mm			1,900～2,600mm		1,900～2,580mm	
横幅	700～960mm	961～1,400mm	1,401～1,900mm	700～960mm	961～1,400mm	1,170mm	1,550mm

※グリッドボックスは高さ2,235mm以下の場合、3×5/4×5となります。

ボックス数の考え方 ボックスの横幅も変更できるので、「横幅」×「数」の組み合わせを自由に選択できます。

ボックス数を少なく コスト重視の方向け

少ないボックス数で構成する場合、コストは下がりますがひとつひとつのサイズが大きくなります。

ボックス数を多く 使い勝手重視の方向け

ボックスのサイズを小さく数を多く構成することによって、いろんな置き方ができるため、使い勝手がよくなります。その分コストは上がります。

サイズの異なるBOXで構成

ユニットサイズを均等にすることも、サイズを変えることも自由自在です。

Step 3

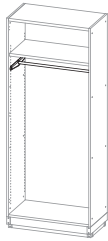
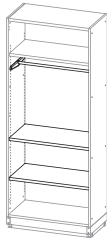
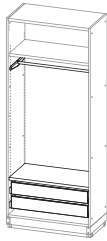
収納の用途を考えよう！

どんなものを、どのくらい収納しますか？

ステップ2で組み合わせたスタンダードボックスの中に用途に合ったユニットタイプを選びましょう。

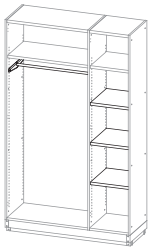
Standard Box

スタンダードボックス ユニットバリエーション

A	C	G	H
棚板×3枚	ハンガーパイプ×1本	ハンガーパイプ×1本 棚板×2枚	ハンガーパイプ×1本 棚板×1枚+引出×2杯
			

Select

ユニット選択例

C + A
15・20は2ユニット選択可能

(15でのイメージ)

Step 4

自分好みにカスタマイズしよう！

Parts

パーツバリエーション

スタンダード

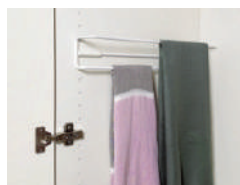
▼内部パーツ



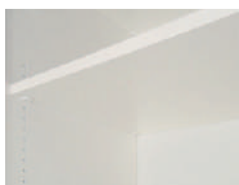
ハンガーパイプ



引出



小物ハンガー



棚板

▼外部パーツ



取手変更（丸型/角型）



取手なし（プッシュオープン）

※開扉なしにも変更可能です

ダブル

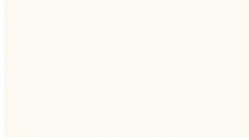


フラップカウンター

ダブルボックスにフラップカウンターを追加することで、デスク使いも可能に。リビングサイドのちょっとした書き物、メイクやネイルを楽しんだり、またリモートワークにも活躍します。

Color

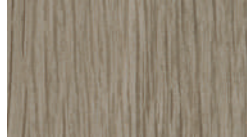
カラーバリエーション



クリア (W4)



ペール (P4)



グレージュ (G4)



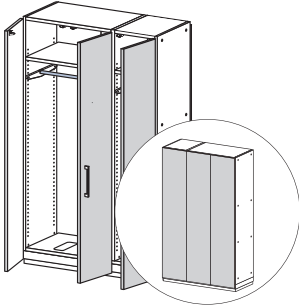
ナチュラル (B4)



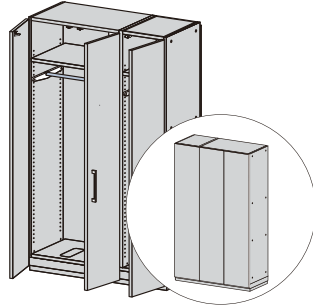
ダーク (D4)

Color Change

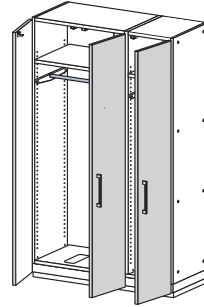
カラー変更可能箇所



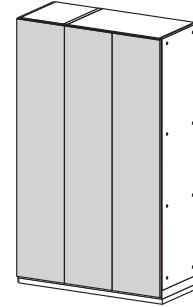
①外部変更(開扉と背面)



②全体変更(外部と内部)



③開扉変更



④背面変更

※ 変更していない箇所のカラーはクリア(W4)です。

隙間なく「ピッタリ」を叶える便利なアイテム

Upper Filler

アッパーボックス・フィラーボックス

梁があり天井と壁面に段差がある場合に設置する納め材です。
天井の高さが2,600mm以上の場合でも、これらのボックスを組み合わせることによって隙間を無くします。

	アッパーボックス	フィラーボックス
奥行	560mm	557mm
高さ	300~600mm	100~299mm
横幅	300~550mm(片開扉) 551~1,100mm(両開扉)	300~1,100mm

※収納機能あり

※収納機能なし

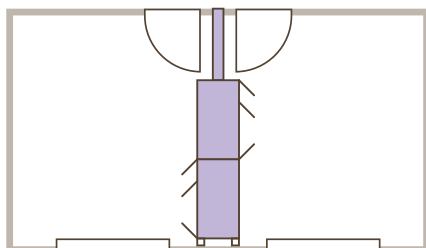


Panel

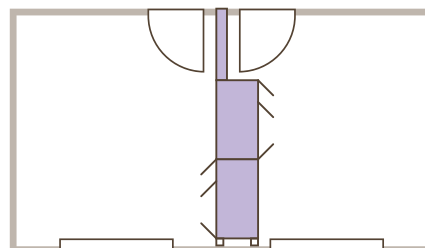
袖壁パネル

ドアとドアの間隔が収納の奥行(600mm以上)を取れない場合でも、袖壁パネルを活用することで、壁との距離をつくらることができる納め材です。

袖壁パネル納め①



袖壁パネル納め②



- ドア間や窓間が狭い場合でも設置が可能です
- コンセントやカーテンレールを避けることも可能です
- 中央・左右自由に固定が可能です

※既存の袖壁(建築壁)に設置する場合は、サイドスペーサーWという納め材で隙間なく設置することが可能です

Easy to move,
easy to fit!

かえたら、いつでもラクラク移動

ハンドル操作ひとつでかんたんに ご家族だけでうごかせます

セフィットの移動はハンドル1本。

脚立に登ったり、ドライバーでネジをはずしたり、そんな「手間」は必要ありません。

だから、シーンや気分に応じて簡単に移動でき、いつでも快適な空間を叶えます。

うごく仕組み

かえたら、いつでもラクラク移動

01 可動状態にする

昇降ハンドルを左回りに回して
キャスターを出し、可動状態に

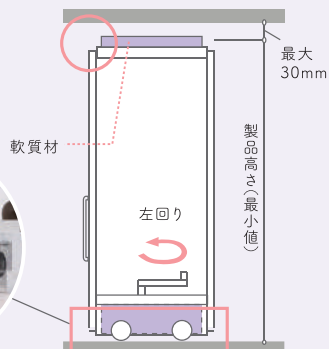


可動間仕切収納には、ボックスの下にキャスターが格納されていて、ハンドルを左回りに回すと、台輪の内枠が上昇し、キャスターが接地し、ボックスがうごくようになります。



左回りに
回す

ボックスが
下降して
キャスター
が出る



02 移動する

2名以上で
ゆっくりと移動させる

軽く
押すだけ

キャスターが出てきたらあとはもう軽く押すだけ。リフォーム工事もないので、お部屋の模様替え、仕切り替えも女性でもかんたん、スピーディーに行えます。



移動の様子を
動画で見られます！



Before



After

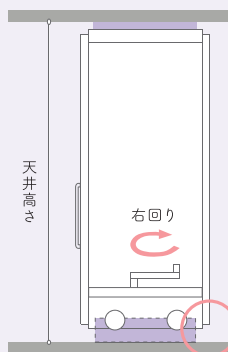


うごかない仕組み

ガッチリ固定で安心・安全

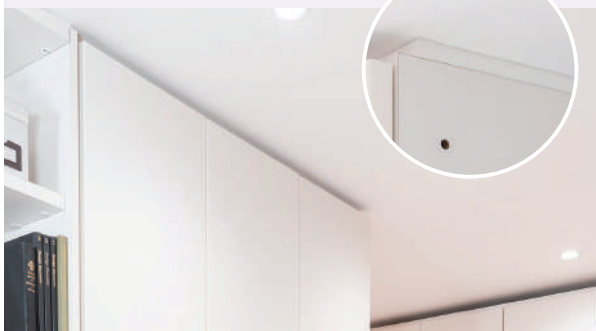
03 固定する

昇降ハンドルを右回りに回して
ボックスを固定



ボックスが
上昇する

設置位置を決めてハンドルを右回りに回すと、
台輪の内枠が下降してキャスターが収納されます。
同時にボックスが上にあがって天井に突っ張ります。
ボックス天面にはスポンジ状の天井スペーサーを
備え、天井スペーサーが天井に当たって5mmつぶれ
て納まることで間仕切り壁のように、
さらにしっかり固定されます。



地震に強い

震度7の揺れの
耐震テストをクリア

中越地震クラスの震度7の揺れの耐震テストをクリアして
います。揺れを検知すると、自動的に扉をロックする耐震
ロック機能があるため、ドアが開いてしまい中のものが崩
れ落ちる心配もありません。

耐震ロック機能で
ドアをロック



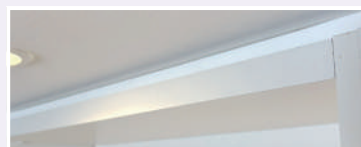
天井スペーサーで
しっかりと突っ張る



壁と天井の隙間もピッタリ

天井と壁との隙間をなくし、
光と音が気にならないよう工夫

ボックス天面にスポンジ状の天井スペーサーを備えてお
り、固定時、天井にしっかりと突っ張って壁のようにしっか
りと納まります。壁との隙間もスポンジ状の軟質材(サイ
ドスペーサー)がボックスボックス側面と壁面との隙間
をしっかりと埋めることで、明かり漏れや音漏れを防ぎ、
建築壁と同等の納まりを実現します。

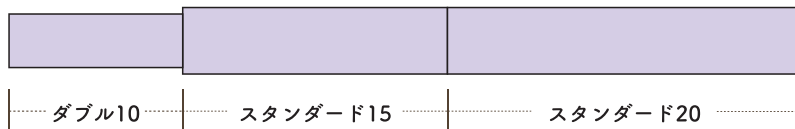


MODEL STORY

空間は、時のながれとともに、
形をかえるべきだと考えています。

*Fit in
bedroom*

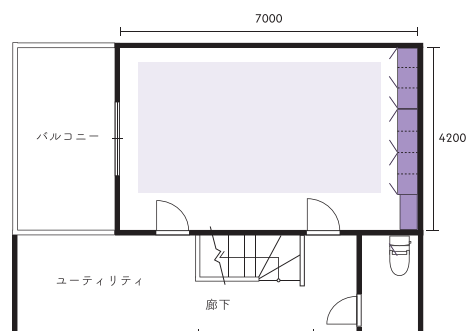
設置したのはこの3つ



Scene 1

子どもが小さいうちは、
収納を壁に寄せたオープンな空間

最初から部屋を細かく区切らず、ひとつの大きな空間として寝室を広く確保。
収納は壁際に寄せて、広々としたオープンスペースに。夫婦のベッドとベビー
ベッドを並べて使える、ゆとりある寝室としての使い方から始められます。まだ
小さな赤ちゃんと過ごす時期は、ベッドも心も、できるだけ近くに。



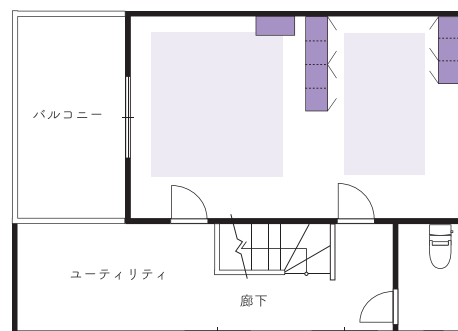


Scene 2

つながりをもたせながら、緩やかに間仕切り、 ワークスペースや遊びスペースをつくる

寝室の一角を、可動間仕切でゆるやかに分けて、子どもの遊びスペースに。
視線や声が届くから、見守りながら過ごせる距離感も心地よい。空間の一部
を、家族の成長に合わせてフレキシブルに換えられます。

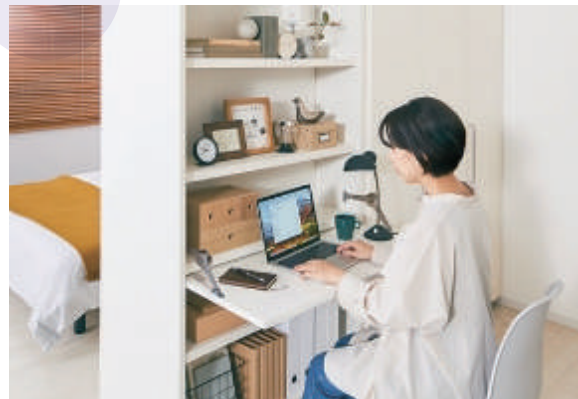
緩やかに間仕切れば、寝室の一角が集中できるワークスペースに。家族の
気配も感じながら、自分の時間に集中できます。



遊びスペース



ワークスペース

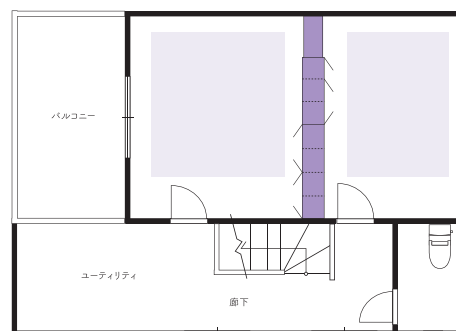




Scene 3

プライベートが必要な年代には 夫婦の寝室と子ども部屋を完全間仕切

思春期になると、家の中でも「自分の世界」がほしくなる時期が訪れます。可動間仕切収納で夫婦の寝室と子ども部屋をしっかり分ければ、音や視線を気にせず過ごせる、独立した空間に。家族の距離感をほどよく保ちながら、それぞれの暮らしを大切にできる“ちょうどいい境界線”をつくれるのが、可動間仕切収納の魅力です。



友達がたくさん来る日は、
子ども部屋を広げることも！



兄弟ふたりで
部屋を分けてつかう場合も

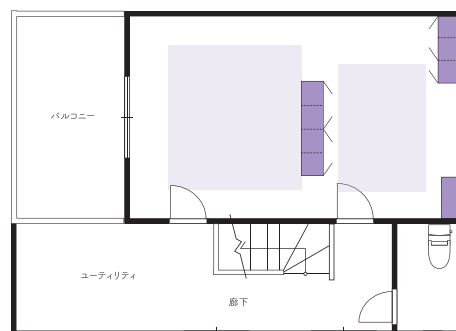




Scene 4

子どもが独立した後は 再び夫婦の日常を楽しむ空間として

可動間仕切収納なら、仕切っていた空間をひと続きに戻すだけで、夫婦二人の生活にちょうどいい、ゆとりのある部屋へと早変わり。趣味のスペースにしたり、ゆっくりくつろげるリビングにしたり、その時々のご過ごし方に合わせて空間を柔軟に変えられます。暮らしのリズムに寄り添いながら、その時々によい住まいへと整えられます。



スクリーン代わりにすると
ホームシアター空間に早変わり！



趣味のスペースを確保しつつ
家族とゆったりくつろげるスペースも

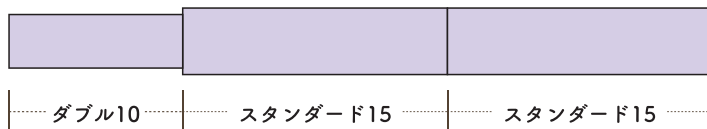


MODEL STORY

1日として同じ日はないから、
一番心地いいように、
空間をかえるべきだと考えています。

*Fit in
living*

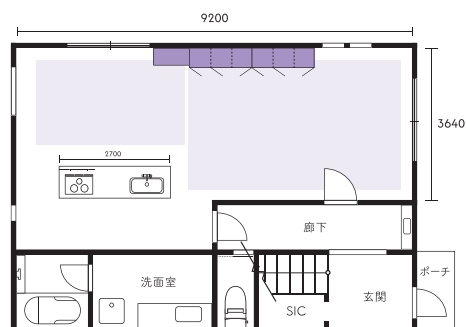
設置したのはこの3つ



Scene 1

普段は大容量の収納として
リビングをスッキリ整える

リビングは家族の物が集まりやすく、気づけば雑多になりがち。
可動間仕切り収納を壁側に設置すれば、生活用品や子どもの学用品、季節
の物までたっぷりしまえる大容量の壁面収納に。片付けやすさも向上し、
家族みんなが自然と快適に過ごせるリビングをつくれます。

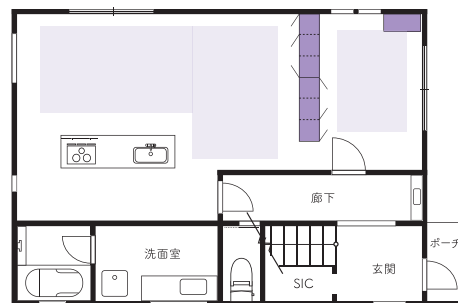




Scene 2

料理の手を止めなくても大丈夫 ゆるやかにつながる家族の空間

キッチンで過ごす時間と、子どもがリビングで遊ぶ時間。お料理をしながらでも、可動間仕切収納の向こうから楽しそうな声や気配が優しく伝わってくる。そんな「いつでも様子がわかる安心感」があるからこそ、自分の作業にゆったり取り組みます。ほどよく空間を整えられるのは、可動間仕切収納ならではのメリットです。



同じ空間で一緒に楽しむ



違う空間でも安心して楽しめる

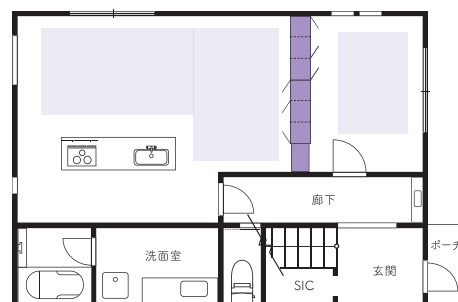




Scene 3

自宅でネイルサロンを開業！ 予約がある日だけサロンスペースに

リビングの一角を可動間仕切り収納で完全に仕切れば、自宅の中に小さな「サロン」をつくることができます。予約があるときだけサロン空間として独立させるから、暮らしと仕事のバランスを柔軟に調整でき、開業のハードルもぐっと下がります。家族の生活を大切にしながら、夢や好きなことを叶えられるスペースづくりに最適です。



自宅で憧れのネイルサロン



いつものリビングが、サロンに早変わり

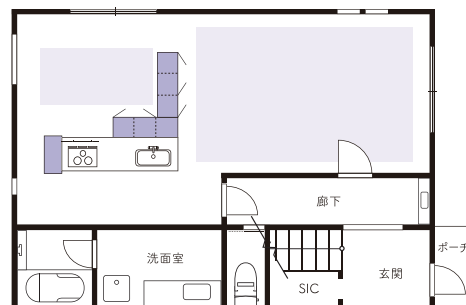




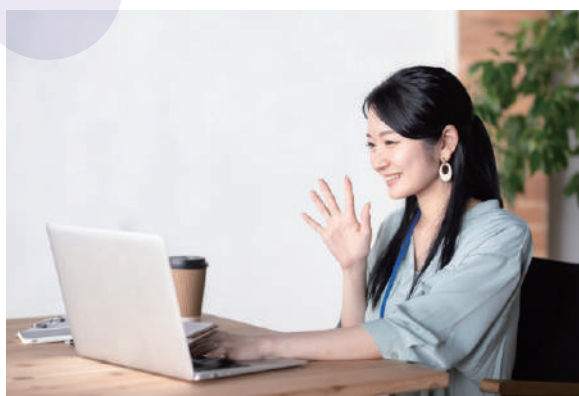
Scene 4

急なオンライン会議でもキッチンやリビングの生活感を隠してスッキリ

急なオンライン会議や、集中したい在宅ワークのときに便利なのが、ダイニングを囲う間仕切の使い方。背景に生活感が映り込まず「即席ワークスペース」に。棚を戻せばふだんのダイニングに戻るので、食事の時間や家族の動きもジャマしません。暮らしと仕事をスムーズに切り替えられる、新しい働き方にフィットした空間づくりが可能です。



急なオンライン会議でも



集中したい時の、書齋として

